

ユリノキ
の町から

風の便り 72

2024 (令和6) / 10 / 1
八千代・ゆりのき台 辻 秀幸

プロジェクト・ポアンダンテロガシオン

オオタバコガ (昆虫綱 チョウ目 ヤガ科)

愛媛県あわじ島産のレタスでイモムシ発見。大分前、やはりレタスでイモムシを見つけ、オオタバコガあたりが怪しいと睨んだが決定的な証拠が見つからなかった。その時に、次に見つけたら羽化まで育てて確かめよう、と決心した。チャンス到来。エサはレタスでもいいだろう。レタスなら毎日でも用意できる。プロジェクトXならぬプロジェクト「？」を画策。広口の透明な容器、割り箸、レタス、草花用土を秘かに調達。艱難辛苦することもなく、大成功。この度のイモムシはオオタバコガと確認できた。



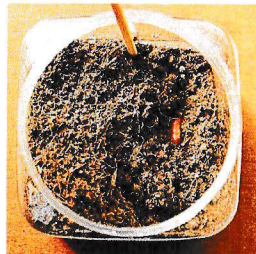
幼虫発見 2022/10/5。体長 14 ミリ (10/8 測定)。左上写真は 10/17。体長 30 ミリ。

容器に土を入れ、羽化に必要なと割り箸を挿し、幼虫を乗せたレタスをセット。ふたを軽くかぶせた。

レタスを食わず、盛んに動き回る。

10/22 幼虫が姿を消した。レタスが気に入らなくて餌探しに脱走したか、ひょっとして土に潜って蛹に変身しつつあるのか、プロジェクト？を断念するか続行か、なんぞと悩む。

11/14 サナギになっている、との希望的いれ加減的推測に基づいて土をやさしくどけてみた。居た。左中写真がその時の状態。体長 20 ミリ。深さ 1 釐。



11/19 成虫発見 (次ページ)。土を除けてサナギの抜け殻 (17 ミリ) 確認。左下写真はその時の状態。土から出てくる所は見逃した。

(左 2 枚の写真で、割り箸の位置は移動している。容器の向きは同じ)

右写真は、上がサナギ、下が抜け殻の拡大。



左写真、容器のふたの内側に成虫発見時の様子。動かない。やがてブルブルモンモンと動き始めた。そして急に活発になり飛んだ。

お腹が充分膨らんでいたような気がする。

窓を開けたがカーテンの陰に入り、探すも見



見つけれず、そのままとする。

三日後、電灯の傘や天井でパタパタ飛び姿があった。静かにしているところを撮影し始めた途端に大きく飛び、開けた窓から外へ。



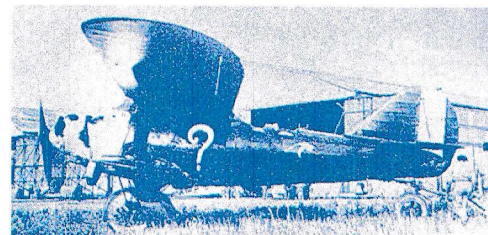
ポアンダンテロガシオンって？

フランス語でハテナマークのことですが、アモーレ、ボンジュール、マドモアゼル、パピヨン、アシジューポーンぐらいしかわからない私が知っているのはなぜか？ ムシとは関係ない話です。

ヒコーキの写真の中に、胴体に「？」マークを描いた飛行機がありました。

アメリカのリンドバークが大西洋単独無着陸飛行に成功したのが 1927 (昭和 2) 年で、以後長距離飛行に挑戦する人や会社が次々と現れました。その一つがフランスのこのブレゲー社「ポアンダンテロガシオン」号です。パリからニューヨークへの大西洋横断に挑もうと用意した機体です。ヒコーキで人や物を運ぶことがなんとか出来そうだというめどがついたとはいえ、エンジンが大西洋のあちら側に着くまで動き続けるかどうかやってみないと分からないという時代。「さて、うまくいくかな」とのジョーク、フランス人ですからエスプリで名付けたのでしょうか。

結果オーライ D'acc. O.K. ! 1930 年パリ発 5700km を飛んで 37 時間 17 分後、ニューヨーク着。残念マークにならずに大成功。94 年後にもこうして話題にされることとなりました。



ブレゲー「ポアン・ダンテロガシオン」号 長距離機
「世界の翼・別冊 写真で見る航空史・上」
朝日新聞社 昭和 50 から

資料によっては「疑問符」としている。後ろにも大きい車輪が見えるが、移動するためにあてがった車。この時代の機体のこの位置には車輪(尾車輪)ではなく「そり」が付けられている。当時の飛行場は、広めの平らな原っぱという感じの場所です。